

会 告

平成 17 年度農業土木学会大会講演会の講演申込みについて 	71
平成 17 年度大会講演会における「企画セッション」の募集	76
海外の復興支援における農業・農村開発の役割 第 21 回海外事情講演会 	76
農村地域の資源保全と農業農村整備のあり方について 第 37 回中央研修会 (再々) 	77
農業土木学会論文集投稿料の改定について (再々)	77
「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き」の発行について (再々)	77
投稿原稿の閲読状況が確認できます!	78
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について	78
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め	79
農業土木学会誌への投稿お待ちしております! 小特集以外の投稿も歓迎します	79
新コーナー:「私の勤める本」の原稿を募集しています!	81
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 18 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集	81
北海道支部講習会の開催について (第 3 報) 	82
平成 16 年度京都支部講演会について (第 2 報) 	82
国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について	83
学会記事	84

農業土木学会 (本部) 行事の平成 16 年度計画

農業土木学会 (本部) 16 年度行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中  を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 17 年 1 月 12 日	行事企画委員会	第 37 回中央研修会 	農村地域の資源保全と農業農村整備の今後の方向について 新たな食料・農業・農村基本計画における農業環境・資源の保全対策の確立と農業農村整備	東京大学	72 巻 10, 11, 12 号, 73 巻 1 号
" 2 月 17 日	国際委員会	第 21 回海外事情講演会	復興支援における農業・農村開発の役割について	農業土木会館	73 巻 1 号

次号 73 巻 2 号予定

展望: 「千載不磨の水 愛知用水のリフレッシュを終えて」: 神田 真秋

小特集: リフレッシュした愛知用水

愛知用水の生い立ちと特色: 大澤 賢修他

生まれ変わる愛知用水: 翠川 恒雄他

愛知用水二期事業における水路改築の工夫: 所 一志他

地域と共生する愛知用水: 都築 義之他

新たな展開を迎える愛知用水の管理計画: 森田 保則他

講座: 生物・社会調査のための統計解析入門: 調査・研究の現場から (その 7) 判別する : 楠本 良延

小講座: 自動ゲート (上下流水位制御ゲート): 大塚 明克

私のビジョン: 将来の管理に思うこと 愛知用水二期事業管理に向けて : 北村 達也

論文をかたる: 環境評価研究における評価シナリオの重要性: 合崎 英男

農業土木学会関連行事予定

平成 17 年 1 月 8 日	土壌物理研究部会	研究会		新しい人の土壌物理	東京大学	72巻12号
平成 17 年 1 月 20 日	京都支部	研修会		土地改良施設耐震設計の手引きの解説, 環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引きの解説		72巻12号
平成 17 年 1 月 26 日	関東支部	地方講習会および支部研修会		土地改良施設耐震設計の手引きの解説, 環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引きの解説	横浜市	72巻12号
平成 17 年 1 月 26 日	北海道支部	支部講習会		北海道における耐震設計のあり方と環境に配慮した事業の進め方について(仮)	札幌市	72巻11号
平成 17 年 2 月 15 日	京都支部	講演会		農村資源と多面的機能の維持保全について		72巻12号
平成 17 年 2 月	農村生態工学研究部会	地方研究会			栃木県	
平成 17 年 3 月	水土文化研究部会	第 2 回水土文化研究部会		水土文化の持つ機能と共有認識に向けて	農業工学研究所	

学会誌 73・74 巻の小特集・特別企画のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 げ 4 ページ厳守)
73 巻 2 号 リフレッシュした愛知用水		
3 号 貧困削減・平和構築と海外農業農村開発		
4 号 圃場～流域レベルの水環境管理		
5 号 技術者資格の国際化対応の現状と課題		
6 号 大会関連 京都支部(仮)	公募なし	平成 17 年 1 月 14 日
7 号 現場における農業土木技術(仮)	平成 16 年 12 月 24 日	平成 17 年 2 月 15 日
8 号 農業土木の防災技術(仮)	平成 17 年 1 月 25 日	平成 17 年 3 月 15 日
9 号 農村における生物多様性, 外来種(移入種)を巡る現状と課題(仮)	平成 17 年 2 月 25 日	平成 17 年 4 月 15 日
10 号 農業水利施設のストックマネジメント(仮)	平成 17 年 3 月 25 日	平成 17 年 5 月 13 日
11 号	公募なし	
12 号 ブロック編集号	平成 17 年 5 月 25 日	平成 17 年 7 月 15 日
74 巻 1 号 おらが町の地域再生・町づくり(仮)	平成 17 年 6 月 24 日	平成 17 年 8 月 15 日

上記のテーマに沿った報文の投稿をお待ちしております。

なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。会告 80 ページに掲載されている特集の趣旨をお読みいただいた後、公募要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、1号に収載の「農業土木学会誌投稿要項」および「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

平成 17 年度農業土木学会大会講演会の講演申込みについて

研究委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請予定



平成 17 年度農業土木学会大会講演会は、平成 17 年 8 月 23 日（火）、24 日（水）、25 日（木）の 3 日間、岐阜大学で開催されます。また、26 日（金）には現地研修会が行われます。この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込みください。

今回のご案内は講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌 3 月号でお知らせします。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**：口頭発表者は、本学会会員に限ります。講演申込受付の際、会員番号を確認いたします。平成 17 年 4 月入会も可とします。非会員の口頭発表は認めません。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受け付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：11 部門あります。ただし、プログラム編成上、希望部門が変更される場合もあります。
- (4) **講演方法**：個人発表とし、1 人（共同研究の場合は口頭発表者）1 課題とします。ただし、**企画セッションについては、研究発表セッションとの複数発表を認めず**。（お一人が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません）
講演発表の補助として、OHP および液晶プロジェクターを準備します。スライドプロジェクターや VTR などは準備いたしません。これらの持ち込みは可能です。自前の機器を使用される場合、投稿票にその旨を記入するとともに、発表当日は進行の妨げにならないようにして下さい。
- (5) **講演時間**：1 課題 15 分（発表 12 分、質疑 3 分）です。
- (6) **講演要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に収録します。
- (7) **大会概要集**：投稿票のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演の 200 字概要を、大会概要集に収録します。

2. 投稿要領

- (1) 所定の投稿票と講演原稿一式の提出および申込料 2,100 円（消費税込み）の納入をもって申込みとみなします。なお、送金後に発表を取消されても、申込料は返金いたしません。**郵便振替用紙および入会申込書は、本誌巻末に綴じ込んであります。**
- (2) 投稿原稿は、図・表・写真などを含め 1 課題 2 ページとします。市販の A4 判上質紙（コピー用紙等、ただし感熱紙は不可）に印字した原稿で投稿していただきます。後述の「4 講演原稿の書き方」に従い、執筆して下さい。
- (3) CD ROM 版講演要旨集の作成にご協力ください。CD ROM 作成を容易にするため、投稿原稿のファイルを PDF 形式に変換して提出してください。ファイルの提出がなかった原稿については、紙原稿を画像としてスキャンしたものを CD ROM 版講演要旨集に収録します。
- (4) プログラム編成作業の都合上、投稿票と同じ内容の Excel ファイルを、必ず提出してください。
- (5) 投稿原稿 PDF ファイルならびに投稿票 Excel ファイルのファイル名は、半角ローマ字表記の口頭発表者名（姓名）としてください（例：「taikai tarou.pdf」、「taikai tarou.xls」）。これらファイルを電子メールで送る場合の宛先は、taikai@jsidre.or.jp です。メール発信の際、表題（Subject）も口頭発表者名として下さい。また、添付ファイルの大きさにご注意ください。
これらファイルの送付を電子メールに依らない場合は、口頭発表者名が表面に記されたフロッピーディスクまたは CD ROM で提出してください。
- (6) 投稿にあたっては、次の書類等を同封し、郵送の場合は事故防止のため必ず簡易書留郵便にて、表に講演要旨在中と朱書きしてご送付下さい。原稿は、汚したり、折ったり、しわにならないよう十分注意して、A4 サイズの封筒（角型 2 号）で送付して下さい。受領はがきの表には返送先を、裏には講演題目と口頭発表者名を必ず明記して下さい。なお、はがきが同封されていない場合は、受領確認の通知はいたしません。

- 1) 講演申込料の振替の写し
- 2) 原稿
- 3) 原稿コピー 4 部
- 4) 投稿票
- 5) 投稿票コピー 2 部

- 6) 投稿票 Excel ファイル (FD または CD ROM, 電子メールでも可)
- 7) CD ROM 版講演要旨集用 PDF ファイル (FD または CD ROM, 電子メールでも可), 6) と 7) は, 一つのメディアと一緒に入っていてもかまいません。
- 8) 発表原稿受領はがき (官製はがき)
- 9) 入会申込書 (非会員のみ)

(7) 締切は, 平成 17 年 3 月 31 日 (木) 消印有効 (遅延は不可)

(8) 申込・問合せ 農業土木学会事務局大会担当 (花塚) あて

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 農業土木会館内

☎ : 03 3436 3418 FAX : 03 3435 8494

E mail: taikai@jsidre.or.jp

郵便振替 : 00160 8 47993 (加入者名 : 農業土木学会)

3. 投稿票

下記注意事項を参照の上, 必要事項を記入して原稿に添付して提出して下さい。投稿票の内容の一部は大会概要集に収録します。

- (1) 必ず会員番号を記入して下さい (4 月入会者は不要)。
 - (2) 講演の概要は, 必ず 200 字以内の日本語で記入して下さい。(英文不可)
 - (3) プログラム編成に使用しますので, 講演者氏名, 所属機関, 講演題目 (副題も含めて) は, 必ず講演原稿と一致させて下さい。
 - (4) 講演希望部門 (第 1 希望・第 2 希望) とキーワードを必ず記入して下さい。キーワードは講演内容にふさわしいものを文字で記入して下さい。キーワードの例は, 本誌 00 ページに掲載されていますが, 必ずしもこの中から選択する必要はありません。
 - (5) 投稿票および投稿票 Excel ファイルは, 下記の様式で作成して下さい。投稿票の様式は本誌 00 ページにあります。また, Excel ファイルの様式は, <http://www.jsidre.or.jp/taikai/> よりダウンロードできます。
- (下の表の 2 段目, 3 段目は, 1 段目の右側にそれぞれ続けて作成して下さい)

口頭 発表者 印	会員番号	氏名	フリガナ	ローマ字(姓 名)	所属(和)	所属(英)	代表者 連絡先〒	代表者連絡先住所
1								下の段を右につづける
2								
3								
8								

代表者連絡先 TEL	代表者連絡先 FAX	代表者連絡先 E mail	講演題目	講演題目(英文)	第 1 講演 希望部門	第 2 講演 希望部門

次ページの段を右につづける

キーワード 1	キーワード 2	キーワード 3	写真 枚数	図 枚数	表 枚数	参考 文献 数	使用 機材	講演の概要 (200 字以内)

4. 講演原稿の書き方

- (1) 原稿用紙は, A4 判 (横 210 mm, 縦 297 mm) の白紙とし, 印刷の都合上, マージンは次のようにして下さい。
上 : 25 mm, 下 : 27 mm, 左 : 23 mm, 右 : 25 mm
- (2) 原稿は, オフセット印刷で縮写され, B5 判の大きさになります。
- (3) 書式

文字：文字は、10.5ポイント以上として下さい。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使いください。特殊なフォントは極力使わないでください。また、機種依存文字（、、…、、…など）も使わないでください。

上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組み合わせができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。

題目・所属・氏名・本文：本文原稿の題目は、1ページ目第1行と第2行に中央に寄せ、12～14ポイントで和英併記して下さい。

講演者氏名（連名の場合には口頭発表者名の前に 印をつける）は、第4行と第5行に中央に寄せ、10～12ポイントで和英併記して下さい。

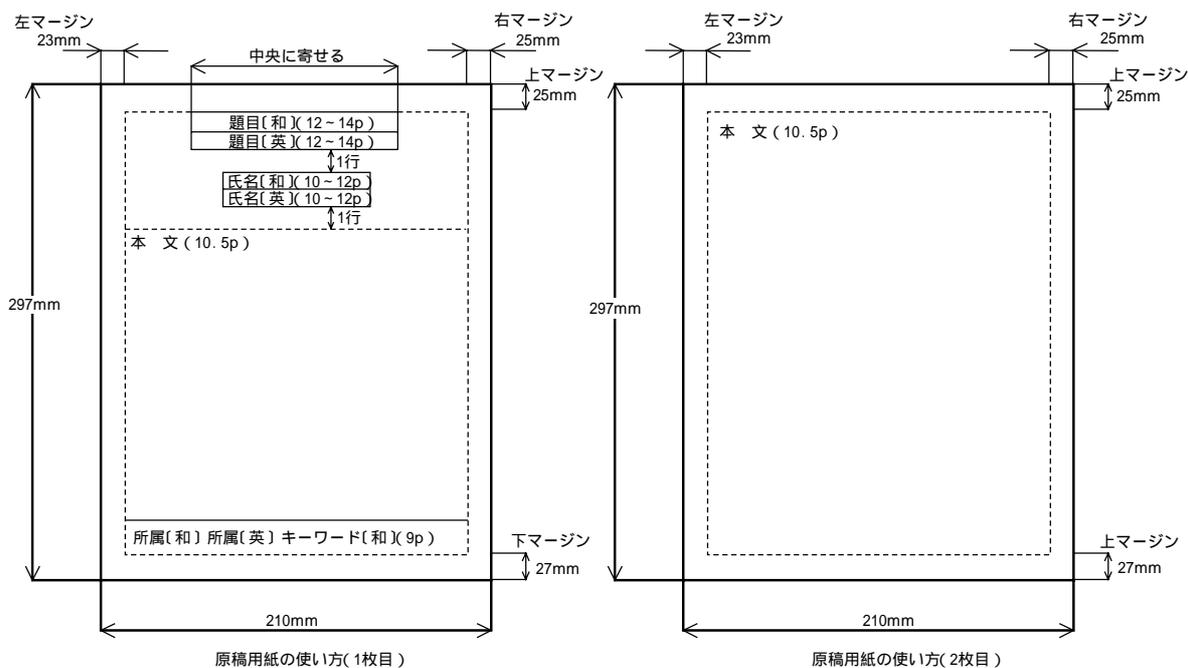
所属は、1ページ目本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕を書いて下さい。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにして下さい。

本文は、第7行から書き始めて下さい。2ページ目は第1行から書いて下さい。

図・表・写真：本文とともに原稿用紙内に書込み（あるいは貼込み）、幅いっばいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして下さい。なお、図表表題にも英語を併記して下さい。

（4）その他：2枚の原稿（コピー含む）の裏面右上に、鉛筆で、口頭発表者名およびページを記入して下さい。

5. 著作権 講演要旨集と大会概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、(社)農業土木学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。



キーワード表			
1. 水 理	2. 水文・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流・地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質水文 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 個体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリ 地下水保全・地下水汚染 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境	11. 海外事情・情報処理・その他	
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農地景観	A. 環境保全 環境影響評価 水質 大気 土壌 地下環境 砂漠化 地球環境 ----- B. 生態系 緑地 親水 ビオトープ	海外 現場報告 測量・GIS リモートセンシング プログラミング手法 通信・インターネット エネルギー 電磁波・光 複雑系 新素材・新手法 新手法 水産土木 農業土木教育	

受付月日	No.	申込金受領	会場番号	講演番号

平成17年度大会講演会投稿票

1. 講演者の氏名・所属機関 (共同研究の場合は、口頭発表者に印をつけて下さい。)
氏名の順序は原稿と一致させて下さい。

印	会 員 番 号	氏 名 (フリガナ)		所 属 機 関
		ローマ字 (姓_名)		

講演者の連絡先 (住 所) 〒 _____ (TEL) _____
E mail _____ (FAX) _____

Excel ファイルの送付方法 同封 FD/CD ROM E mail 送信 (送信日: _____)

2. 講演題目 (題目および副題は、必ず本文と同じものを記入して下さい。)

(和文) _____

(英文) _____

3. 講演希望部門 (第1希望部門と、第2希望部門を数字で記入して下さい。)

第1希望		第2希望	
------	--	------	--

1. 水理 2. 水文・気象 3. 土壌物理 4. 土質力学 5. 応用力学 6. 材料・施工
7. 灌漑排水 8. 農地造成・整備・保全 9. 農村計画 10 A. 環境 10 B. 環境 11. 海外事情・情報処理・その他

4. キーワード (上記の講演希望部門に関連したキーワードを1個以上、記入して下さい。)

1		2		3	
---	--	---	--	---	--

5. 図表などの数

写真の数	図の数	表の数	参考文献の数

6. 発表使用機材

1. OHP 2. 液晶プロジェクター 3. その他 (_____)

7. 講演の概要 (200字以内) (必ず日本語で記入して下さい。)

(20字×10行)

平成 17 年度大会講演会における「企画セッション」の募集

研究委員会

平成 17 年度大会(8月23~25日, 岐阜大学)における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募ください。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は1月31日(月)です。お申込みにあたって、下記事項を学会事務局(taikai@jsidre.or.jp)まで電子メールにてお知らせください。

- 1) 企画セッションのタイプ「オープン・タイプ」、「クローズド・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名、所属、連絡先電話・FAX・E mail
- 4) 企画セッションの概要(200字以内)

「企画セッション」は、特定のトピックスについて、原則90分間のセッションを、オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。いわばオーガナイザーに「おまかせ」のセッションです。セッション内の進行は、通常の発表スタイルはもちろろん、パネルディスカッション、会場の聴衆を含めた討論方式、等も可能です。ただし、セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも、最低2~3名以上の発表があることが前提です。なお、セッションの演者は会員であることを要しませんが、大会参加費はお支払い下さい。

企画セッションのテーマには、科研費研究グループや各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介、等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッションを利用してください。

各研究部会の研究集會も、この企画セッションの一つとして実施していただきます。したがって、研究部会は、企画セッションの開催に向け研究集會の内容をご検討ください。

また、類似した企画が提案された場合、また応募が多数におよ

んだ場合、調整をお願いすることがありますので、ご承知おき下さい。

企画セッションでの発表者は、従来の研究発表セッションとの複数発表を認めます。ただし、**企画セッションでの発表は、プログラム編成上の理由から、1人1件に限ります。**各オーガナイザーは発表者選定にあたり、十分お気をつけ下さい。

なお、企画セッションとはいえ、従来の研究発表と同等ですので、講演要旨集には従来どおり講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また、各セッションは90分を予定していますが、プログラムのブロック割りのため、セッション時間が90分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承ください。

各企画の申込料は、講演題数にかかわらず6題分(12,600円)となります。

今後のスケジュールは、以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切: 1月31日(月)
2. 研究委員会で調整の後、応募テーマの採否の連絡: 2月10日(木)頃
3. 企画テーマの学会ホームページ上での公開と「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表申込は各オーガナイザーに直接): 2月10日(木)頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切: 2月25日(金)
5. オーガナイザーからセッションの講演要旨原稿の提出締切: 3月31日(木)

申込・問合せ先:(社)農業土木学会大会企画セッション担当(花塚)

〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4

☎: 03 3436 3418 FAX: 03 3435 8494

E mail: taikai@jsidre.or.jp

海外の復興支援における農業・農村開発の役割

第21回海外事情講演会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



海外事情講演会を下記のとおり開催することと致しました。会員各位のご参加をお待ち致しております。

記

1. 主催 (社)農業土木学会国際委員会
2. 共催 (財)日本農業土木総合研究所(予定)

(社)海外農業開発コンサルタンツ協会(予定)

3. 期日 2005年2月17日
4. 場所 農業土木会館大会議室
5. 講演内容(予定)
(ア) 復興支援における農業農村開発の意義

- アフガンの水利用と農業・農村開発
 (イ) JICAの東チモールにおける取組み
 東チモールにおけるオイスカの取組み
 東チモールにおける復興支援の取組み
 スリランカにおける農業農村復興支援について

6. パネルディスカッション

テーマ：復興支援における農業・農村開発の役割について

7. 定員 80名程度
 8. 参加費 一般 2,000円
 会員 1,000円
 9. 申込み・問合せ先 農業土木学会担当(吉本・伊藤)
 tel 03 3436 3418 fax 03 3435 8494
 E-mail mineko@jsidre.or.jp

農村地域の資源保全と農業農村整備の方向について(再々)

第37回中央研修会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



本年度の中央研修会は、下記により開催されます。多数のご参加をお待ちしております。お申し込みは学会HP(<http://www.jsidre.or.jp>)の申し込み様式をご利用下さい。

1. 主催 農業土木学会行事企画委員会
 2. 期日 平成17年1月12日(水) 10:30~16:30
 3. 場所 東京大学 弥生講堂(文京区弥生1-1-1)
 4. テーマ

「農村地域の資源保全と農業農村整備の方向について」
 ~新たな食料・農業・農村基本計画における農業環境・資源の保全対策の確立と農業農村整備~

5. プログラム:

- 10:30~10:40 開会挨拶 行事企画委員長 松浦 良和
 10:40~11:50 1) 基調講演 食料・農業・農村基本計画と農村地域資源
 東京大学大学院農学生命科学研究科教授 生源寺 眞一
 13:00~14:00 2) 農地・農業用水等の資源保全への取組みの現状について

- 農林水産省農村振興局集落排水・地域資源循環室長 仲家 修一
 14:10~15:10 3) 資源保全管理における都市住民と農村住民のミスマッチとその解消方法
 農業工学研究所農村計画部地域計画研究室長 福与 徳文
 15:10~15:30 休憩
 15:30~16:30 4) 滋賀県における環境に配慮した資源保全の取組み
 滋賀県農村整備課長 泉 峰一
 16:30~16:40 閉会挨拶
 農業土木学会専務理事 岩崎 和己

6. 定員 200名程度
 7. 参加費 一般 7,000円 会員割引 4,000円
 学生会員割引 2,000円
 8. 問合せ先 行事企画委員会担当 吉本・伊藤
 ☎03 3436 3418
 FAX 03 3435 8494

農業土木学会論文集投稿料の改定について(再々)

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集編集委員会は、投稿者から「投稿料が高い」などの意見があり、また、閲覧料を平成16年度から値下げすることに伴い、投稿料について、平成16年度第1回委員会(16.4.16開催)および第2回委員会(16.7.20開催)で検討を行い、投稿料値下げを決定し、定期刊行物委員会の審議を経て、第189回理事

会の承認を得ました。平成17年4月1日受付の原稿から実施いたします。

	改定後	現行
投稿料	16,000円	20,380円

「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き」の発行について(再々)

このたび、「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き(第1編~第3編)」を発行することとなりました。判型、ページ数、販価および発行日は下記のとおりです。ご希望の方は下記までお申込み下さい。

記

1. 判型、ページ数、販価、発行日
 「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き(第1編)『総論』」
 A4判 約210ページ 定価3,500円(税込,送料学会負担)
 16年12月初旬発行

「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き(第2編)『ため池, 農道及び移入種』」

A4判 約130ページ 定価2,600円(税込, 送料学会負担)

16年12月中旬発行

「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き(第3編)『ほ場整備(水田・畑)』」

A4判 約200ページ 定価3,600円(税込, 送料学会負担)

16年10月発行

2. 申込方法

郵便振替(00160 8 47993)または現金書留でお申込み下さい。

3. 申込先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社) 農業土木学会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

投稿原稿の閲読状況が確認できます!

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集に投稿中の原稿の閲読状況がホームページで確認できるようになりました。

以下の手順で検索して下さい。

学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)を開く。

「論文集」を選択。

「日本語」または「英語」を選択。

日本語の場合は「閲読状況一覧」、英語の場合は「List of pa-

pers under reviewing」を選択。

投稿した年度を選択(受領ハガキに表示されている受付番号の上2桁が年度を表しています。例:「04101」の場合は、「2004年度」を選択)

PDFファイルの「閲読状況一覧表」(受付番号, 閲読回数, 閲読依頼日, 閲読返送日)が表示されますので, 自分の受付番号から閲読状況を確認してください。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では, 2003年1月に日本, 韓国, 台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して, 新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立, 機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊, 2004年12月末にはVol.2, No.4 (Special issue; International Year of Rice)が発刊の予定です。

本ジャーナルは, モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文, 技術論文が多数掲載されますので, 研究者のみならず, 各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が入会されることを望みます。

掲載論文の分野は, 次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆

様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されると, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

なお, PAWEESの第2回 International Awardsの授賞式が, 去る10月21日, 韓国・安山市の韓国農業基盤公社ホールにおいて開催され, 国際賞(6名), 優秀論文賞(4名, うち沢田賞1名), 優秀読者賞(3名)がそれぞれ授与されました。詳細は, 72巻12号の国際ニュース(p.58)を参照してください。

出版社: Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む)8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会HP(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたはFAXでお申込みいただけます。

農業土木学会は, 300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが, 現在会員数は271名(12月現在)と微増はしておりますが, いまだ目標会員数には達していません。そのため, 編集業務を含め年間数百万円の赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき, 多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊。2004年12月末にはVol.2 No.4が発刊の予定です。

さらに、Vol.2 No.4(12月末発行予定)は、国際コメ年(International year of Rice)に連動した特集号となっております。

我が国においても学術誌の評価に、SCi(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制：

- Editor in Chief : Dr. Yohei Sato (Japan)
- Editors および Editing Board には世界各国から斯界の権威が就任しています。
- Managing Editors : Dr. Yoshisuke NAKANO (Japan), Dr. Nobumasa HATCHO (Japan), Dr. Yoshito YUYAMA (Japan), Dr. Ke Sheng CHENG (Taiwan), Dr. Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社：Springer Verlag社(ドイツ)

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿先：農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jpに詳細を記載しています。

PWE 原稿投稿状況報告：2003年1月のPAWEES設立から2004年10月29日まで、Editorialを除いて96本の投稿がありました。その国別内訳は、下記ようになっており、多くの国で認知されつつあることを、ご報告いたします。

国別投稿内訳：日本61、韓国17、台湾2、イタリア2、インドネシア2、フィリピン1、パキスタン1、メキシコ1、マレーシア1、スリランカ1、ナイジェリア1、中国2、ブルガリア2、スペイン2

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

73・74巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

学会誌第73巻6号～第74巻1号までの小特集のテーマ(予定)

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切(必着) (A4判用紙,1,500字以内)	原稿締切 (刷上り4ページ厳守)
73巻 7号 現場における農業土木技術(仮)	公募終了	" 2月15日
8号 農業土木の防災技術(仮)	平成17年1月25日	" 3月15日
9号 農村における生物多様性、外来種・移入種の現状と課題(仮)	平成17年2月25日	" 4月15日
10号 農業水利施設のストックマネジメント(仮)	" 3月25日	" 5月13日
11号	公募なし	
12号 ブロック編集号	平成17年5月25日	平成17年7月15日
74巻 1号 おらが町の地域再生・町づくり(仮)	" 6月24日	" 8月15日

73巻8号テーマ：農業土木の防災技術

日本列島は、その位置、地形、地質、気象などの自然条件から、地震、台風、豪雨、火山噴火などによる災害が発生しやすい国土であるといわれています。このような国土で、われわれの先人は、多くの災害を克服しつつ農業生産を基盤として文明を構築してきました。都市が今日のように高度化していない近代以前では、防災の大半は農地防災をさしていたと考えられます。つまり、農業土木と防災技術は古来より深く関わっていたといえます。

一方、近年に至っては阪神淡路震災や新潟中越地震など、異常気象や地震・水害・火山噴火など、多くの災害が発生しており、防災に対する関心は急激に高まっています。

平成16年度農業農村整備重点施策に「安全で安心な暮らしづくりにむけた防災対策」が掲げられているほか、第3回世界水フォーラムの閣僚宣言においても、貯水池や堤防を利用した災害軽減が盛り込まれています。

また2005年1月には21世紀の防災指針を策定するため、神戸で国連防災世界会議の開催が予定されています。

本特集は、農業土木が有する防災技術が実際の災害でどのように機能したかという事例や将来開発が期待される新技術、また、災害時の危機管理システムなど非構造物による防災対策など農業土木の防災技術について、情報を共有することを目的として企画いたしました。多くのご投稿をお待ちしております。

73巻9号テーマ：農村における生物多様性、外来種（移入種）を巡る現状と課題

平成13年6月の土地改良法改正、平成14年3月の新生物多様性国家戦略（新国家戦略）閣議決定、平成14年12月の自然再生推進法制定、平成17年4月施行予定の特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（特定外来生物法）等、私たちの周りでは生物生息環境を巡り急速な変化が生じています。

農業は生物資源を利用した生産活動で、その方法によっては自然界に大きな影響を与えうるものです。それらの営みは、自然のシステム、生物多様性に支えられているという認識に立って、十分な生態的・技術的配慮により生産性と生物多様性保全のバランスを保ち、農地、森林等の多面的機能を高めていく必要があります。

また、生物多様性において外来種（移入種）の問題は新国家戦略にも掲げられた危機の一つで、いままさに法制度が整えられつつある問題です。そのほか法の枠組みに留まらない取組が必要な問題として、国内で人為的に移動される在来生物への対応、生物多様性の保全の観点からの緑化植物の取扱い等も指摘されています（「外来生物問題に関する総合的な取組について」、中央環境審議会野生生物部会外来生物対策小委員会委員長談話）。このように、生物生息環境への配慮が求められているその一方では、猪等野生鳥獣による農作物被害の増加という問題もあります。

本特集では、広く農村生態系にかかわる問題について、農業土木技術者からみた現状分析および課題、先進的事例、ご意見等、関連報文を募集いたします。多数のご投稿をお待ちしております。

73巻10号テーマ：農業水利施設のストックマネジメント（仮）

ダム、頭首工、開水路、パイプラインなど農業水利施設は、わが国の食料生産を担う重要な施設として、戦後はその整備が進み、現存する施設は再建設費ベースで25兆円という膨大なストックを形成しています。

しかし、これらの中には、老朽化が進行し、これまで担ってきた役割を果たせなくなった施設、また、近々果たせなくなるであろう施設が多数存在します。昨今の厳しい財政事情の下、施設の機能を持続させていくためには、農業水利施設のストック全体を俯瞰した適切な維持管理と更新が不可欠です。そのため、日常点検をはじめとする定期的な機能診断や、施設を長寿命化させライフサイクルコストを低減させる補修・補強技術、そして実際に施設を管理する土地改良区などにおける管理システムの構築などが重要な課題となっています。

そこで、本小特集では、農業水利施設のストックを今後どのように管理していくべきかについて、会員皆様からのご投稿をお待ちします。なお、ハード面のみならず、経済性、意思決定手法などソフト面に関する内容も期待しています。奮ってご応募ください。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」を設けております。

多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと思います。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるも

のを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり1ページ(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

新コーナー：「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、「私の勤める本」のコーナーを新たに設けました。

会員諸兄姉が、ご自分で読まれて非常に参考になった、視野が広がった、技術者として是非ともいろんな方々に読んでいただきたい等々、「私が勤める本」をご紹介いただくコーナーです。

また、自著をご紹介いただいても結構です。下記要領で、奮ってご投稿ください。

記

1. 原稿の長さ：1,200字（写真・体裁等含む）
刷り上がり1ページ以内（原稿には表紙の写真を含めて下さい。）
2. 原稿受付：随時（メールでの投稿も受け付けます）
3. 送付先：〒105 0004 東京都港区新橋5丁目34番4号
農業土木学会学会誌編集委員会あて
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
E mail suido@jsidre.or.jp

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか

—平成18年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成18年も皆さまからの写真で表紙を飾ることといたしました。つきましては、下記の要領で学会誌第74巻(平成18年1~12月号)の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

本年もテーマを「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」として、公募いたします。下記の趣旨をご理解のうえ、多数の応募をお待ちしております。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受け付けております。組写真では、3~4枚の写真を組合わせて、ストーリー性を持たせた写真にして下さい。

記

1. 趣 旨 これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人びとの生活を支えてきました。

特に人力に頼るしかない時代に施工されたものをはじめとする用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、わが国の気象条件や複雑な水利用を考えると、構造物の設計や施工に高度な工夫と多くの労力が必要であったことが容易に想像されます。

それら多くの構築物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産ともいべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

例年の応募状況から、秋季および冬季の写真についても多数の応募をいただけますよう、お願いいたします。

2. 写真の種類 単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルの場合は高画質で、ほぼ400万画素以上を目安に)、サイズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。
3. 枚 数 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。
4. 締 切 平成17年9月30日(必着)
5. 審 査 審査委員会(編集委員と写真家)で12点を選びます。
6. 結果発表 学会誌74巻第1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成18年度大会会場でパネル展示します。
7. 賞 品 入選作品1点につき3万円(表紙掲載料含む)。応募者には記念品をお贈りします。
8. 応募資格 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。
9. その他 応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ)を記入して下さい。また、対象物の名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ、だれが、どうして等)もお寄せ下さい。
原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。
10. 宛 先 〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4 (社)農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

北海道支部講習会の開催について(第3報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **テーマ**：北海道における耐震設計のあり方と環境に配慮した事業の進め方について

2. **期日**：平成17年1月26日(水)

3. **会場**：札幌市・札幌サンプラザ(札幌市北区北24条西5丁目)

4. **プログラム**：

(午前)

1) 「土地改良施設 耐震設計の手引き」の解説

農林水産省農村振興局整備部設計課施工企画調整室設計基準班 有働秀憲

2) 「耐震設計の工種別・標準設計」の事例について

農業工学研究所造構部上席研究官 谷 茂

(午後)

3) 環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き

(第3編)「ほ場整備 水田・畑」の解説

農林水産省農村振興局計画部事業計画課環境計画班

斎藤 泰

4) 北海道における環境配慮事例

北海道空知支庁農業振興部調整課 佐野美夫

5. **参加申込み**

下記様式により,メール,FAXまたは郵便にてお申込み下さい。

参加申込み締切：平成17年1月21日(金)

所属機関 _____

同上所在地 _____

申込代表者 _____ TEL _____

氏名	所属	備考

6. **参加費用**：会員3,000円 非会員4,000円

7. **参加申込先**：

〒060 8589 北海道大学農学部農業工学科内

農業土木学会北海道支部事務局

担当：柏木淳一 E-mail:kashi@env.agr.hokudai.ac.jp

☎011 706 3641 FAX 011 706 4145

平成16年度京都支部講演会について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **テーマ**：農村の環境と資源の維持保全に向けて

農地,農業用水,農村景観および伝承文化など農村地域の多様な資源は,長い歴史のなかで形成,維持されてきたものであり,これら農村の資源は,「食」と「農」を支える重要な役割を担っているほか,生態系の保全,景観の形成,健全な水・物質循環の形成,国土の保全など多様な役割を果たしている。

「農村社会の変化」「国際情勢の変化」「国民意識の変化」といった農業・農村を巡る情勢が変化した現在,農村の環境と資源の良好な保全・管理が益々重要となっています。

今回の講演会では,これら農村の環境と資源の維持保全に向けての現状と課題を踏まえた諸施策の講演および取組み事例の紹介を行うこととしています。

2. **日時**：平成17年2月15日(火) 11:00~16:50

3. **場所**：愛知県中小企業センター講堂

名古屋市中村区名駅4 4 39(名古屋駅徒歩5分)

☎052 561 4121

4. **プログラム**：

10:30~13:00 会場受付

11:00~11:10 開会の挨拶

11:10~16:50 講演

11:10~11:50 「農村資源保全施策の動向」

農林水産省農村振興局整備部農村整備課

集落排水・地域資源循環室長 仲家修一

11:50~13:00 < 休憩 >

13:00~13:50 「農村の環境と資源を保全するための取組事例」

農林水産省東海農政局新濃尾農地防災事業所

愛知県

13:50~15:00 「淡水生物との共生」

岐阜経済大学経済学部教授 森 誠一

15:00~15:10 < 休憩 >

15:10~16:40 「農村資源の維持保全戦略ツールとしての景観とその整備」

東京大学 アジア生物資源環境研究センター教授 堀 繁

16:40~16:50 閉会あいさつ

5. **参加費** 会 員：2,000円

非会員：2,500円

6. **参加申し込み方法等**：

(1) 申込方法 申込様式により,所属機関ごとに取りまとめのうえ,郵送,FAXまたはメールにてお申込み下さい。

(2) 申込期限 平成17年1月28日(金)

(3) 参加費の納入 申込と同時に参加費を下記口座までお振

込み下さい。

なお、参加申込後の取消しには応じかねますので、本人不参加の場合は代理者の出席をお願いいたします。

【振込先】

銀行名 UFJ 銀行 名古屋市役所出張所
 口座番号 普通 1126750
 口座名 農業土木学会京都支部東海事務局代表白枝 健

なお、送金手数料は参加者側で負担願います。

(4) 申込先

〒460 8516 名古屋市中区三の丸 1 2 2
 農業土木学会京都支部東海事務局
 澤井 三男, 白枝 健, 横井 英治
 (東海農政局整備部設計課内)
 ☎052 223 4634 (直通) FAX 052 219 2667
 E メールアドレス: eiji_yokoi@tokai.maff.go.jp

(5) 申込様式

平成 16 年度農業土木学会京都支部講演会参加申込書

所属機関: _____
 所在地: _____
 電話番号: _____
 FAX 番号: _____
 連絡者名: _____

所 属	氏 名	継続教育機構会員番号	備 考
			会員, 非会員
	会 員:	名 × 2,000 円 =	円
	会 員:	名 × 2,500 円 =	円
計			円

(6) その他

- ・当日の昼食および宿泊の斡旋はしませんのでご了承願います。
- ・車、マイカーでの来場はご遠慮下さい。

国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について

PAWEES 2005 International Conference

テーマ: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

On Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production

主 催: PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering

(国際水田・水環境工学会)

共 催: 日本学術振興会, 農業土木学会, 韓国農工学会, 農業工学研究所

共催予定: IWMI, IRRI 他

1. 日 時: 2005 年 9 月 7 (水) ~ 8 日 (木)

2. 場 所: 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

3. テーマ: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

4. 趣 旨

国際研究集会「持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理」は、周辺環境との調和に配慮した持続的水田水管理の適切な技術とその応用に関する最新の研究についての情報交換を目的として、以下の 3 テーマの下に開催されることとなりました。

1. 水田の多面的機能
2. 水田の統合的(参加型含む)水管理と管理技術
3. 環境・食料問題における水田稲作の役割

この研究集会は、内外の研究者のみならず各国・地域の状況に精通した技術者や国際機関の職員を含めた、当分野において主導

的役割を担っている者が一堂に会する機会にしたいと考えております。

研究集会では、最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに、水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し、将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに、過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し、食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることとします。

主催学会の PAWEES は 2003 年 1 月に設立された。これは、第 3 回世界水フォーラムでも議論された水問題、なかでも非常に重要な役割を果たしている水田農業を、流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直すとともに、環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取入れた新しい技術・学術体系として水田農業工学を確立し、その国際化を図ることが重要であるとの認識に由来しているものです。

本国際研究集会は、日本の研究者・技術者が過去に築いてきた関係国・地域、関係研究機関等との連携を強化し、その他諸国の広汎な連携を推進することも意図しています。

詳細については、次号でお知らせいたします。